

ふる〜ぶ

吉野川ファン通信

VOL. 99

2008/5

「ふる〜ぶ」はフランス語 (fleuve) で海にそそぐ大河のことです。
ひと、まち、自然、歴史、風景などの吉野川をとりまく様々な表情をみなさんにお伝えします。



1 page [特集] 吉野川アラカルト

吉野川の春を楽しもう 野草バイキングと プロペラヒコーキ大会

ふる〜ぶ恒例の吉野川で野草を摘み、食すイベント。
3月2日(日)に 石井河川防災ステーションにて、
開催されました。

3 page 吉野川いまむかし 吉野川の渡し編VI

4 page ふる〜ぶ編集部がおじゃましま〜す! 松島小学校の巻 「さとうきびで町の伝統産業を知る」

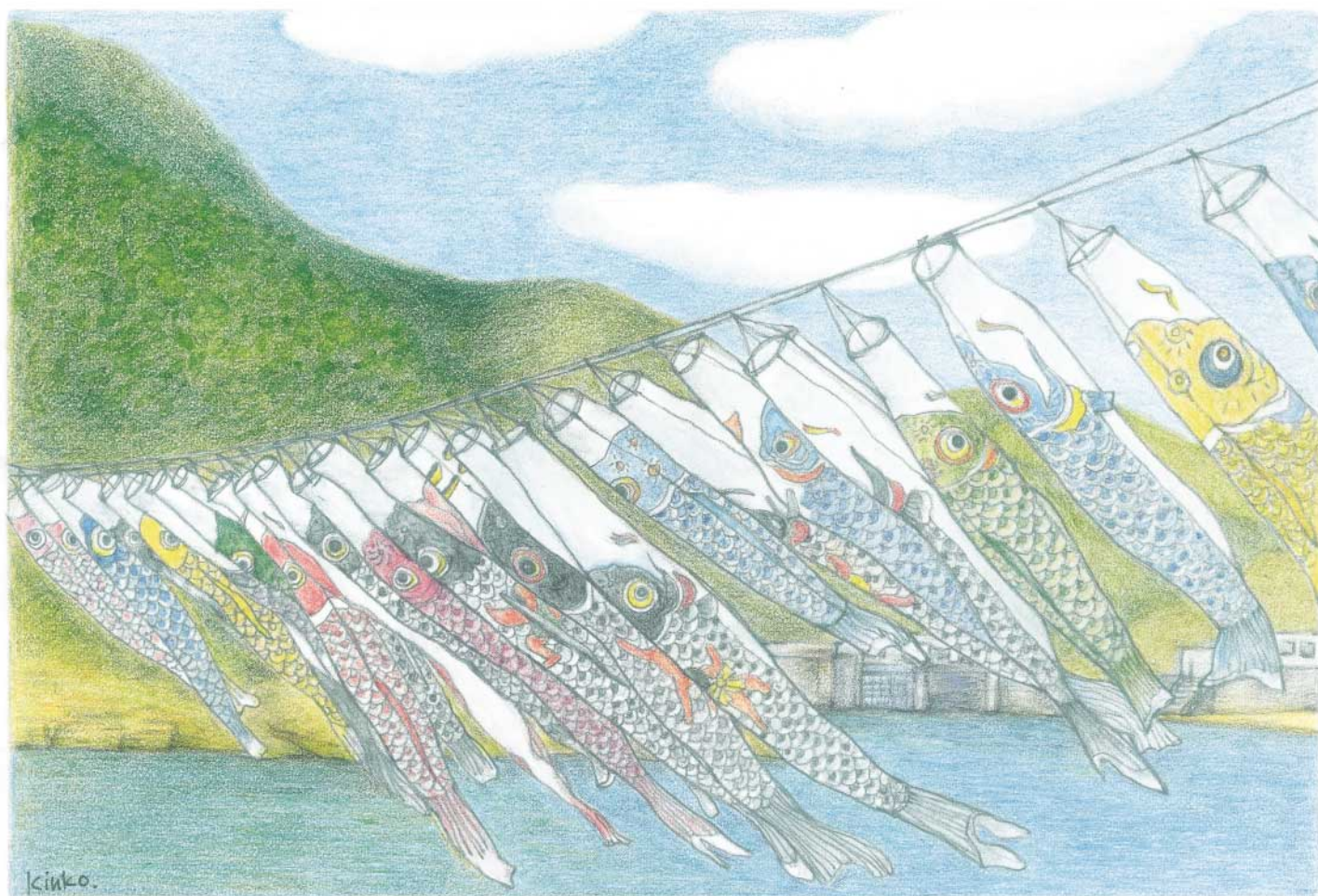
5 page ふる〜ぶめいと通信 一吉野川 川の便りー 渡し舟 写真のミステリー

6 page Ra♪Ra♪Ra♪ エッセイ 春から初夏の野山で身近なハーブを みつけましょう【その2】

ふる〜ぶ INFORMATION
吉野川流域講座・吉野川現地(フィールド)講座
を開催しています

7 page よりよい吉野川づくり<第36回> 平成20年度 吉野川・那賀川合同水防演習を開催します

ふる〜ぶひ・ろ・ば
編集後記・今月の表紙イラスト・プレゼント



吉野川の春を楽しもう 野草バイキングと プロペラヒコーキ大会

吉野川の春。格別寒かった冬が終わり、吉野川にも光あふれる春がやってきました。

堤防も緑に染まり、草花も元気に春を謳歌しています。

ふる～ぶ恒例の吉野川で野草を摘み、食すイベント。

今年は、3月2日(日)に石井河川防災ステーションにて、開催されました。



ふる～ぶめいとリーダーの 皆さんとともに

吉野川に生えている野草を摘み、料理を作って食しながら、世代を超えて楽しい時間を過ごす。過去のイベントでは、野草でイタリア料理に挑戦し、「こんな食べ方もあるんですよ～」と皆さんにご紹介したこともありましたが、昨年からは、その素朴で滋味あふれる野草本来の味を大切に、カラシナとノビルの酢味噌あえ、ヨモギごはんのおにぎり、ヨモギの天ぷら、ヨモギだんごを作っています。

たくさんの皆さんの笑顔に出会いたい、子どもたちに吉野川の春の恵みを知ってもらいたい。そんなふる～ぶめいとリーダーの皆さんを中心に開催してきたイベントも今年で7年目を迎えました。毎回、イベントの前には、ふる～ぶめいとリーダーの皆さんとリハーサルを行います。今年のリハーサルは、2月14日(木)に行いました。実際に河川敷へ出て、野草が生えている場所を確認したり、料理の試作を行ったりしています。その結果、河川敷では、例年作っているカラシナ



野草には、どんな種類があるか、どんな食べ方があるか、摘みかたなどを説明してくれるふる～ぶめいとリーダー今中忠重さん

の酢味噌あえにするカラシナがあまりないことが分かり、ふる～ぶめいとリーダーの森澄子さんがご自宅で作っている菜の花を大量に提供してくださいることとなりました。また、昔の野遊びと同じく、あまり年齢で分けることはせず、多くの方たちにきていただきたいという思いから、今回も子どもたちは、何歳からと分けることはしないようにしたため、大きい子どもたちが調理をしている間、小さい子どもたちは、どう過ごすのかということが懸案事項となりました。これについては、ふる～ぶめいとリーダーの大塩邦光さんがめんこ遊びなどを行ってくれることとなり、合わせてご自身が以前購入されていたプロペラヒコーキのキットを提供いただき、昼食の後、みんなで作ることとなりました。



おもち、天ぷら、おにぎりに、大活躍のヨモギ

元気な声と笑顔が あふれる一日

きらきらとした光が暖かい日差しとなってそそぐ春の日。イベント当日は、お天気にも恵まれ、参加者の皆さんとスタッフを合わせると、総勢55名が集まりました。なかには、このイベントを毎回楽しみにして下さっているご家族もあり「自分で野草摘んで食べられるなんて他にないです」「子どもが毎年楽しみにしていて、行こう、行こうっていうんですよ～」と声をかけてくださる方も。さらに、今回うれしかったのが、いつも来ていただいている方と一緒に来てくださった方がいたり、ホームページなどを見て、初めてきてくださる方がたくさんいらしたことです。新しい出会いはうきうきわくわくです。

河川敷に出ての野草摘みでは、子どもたちは、保護者の方と協力し合いながら、楽しそうに野草を摘んでいました。たくさん生えているヨモギ、その様子は、ニラに似ていますが、土の中は白い小さな球根のノビル。なんだかそれが楽しく、夢中になっていました。



ノビルがとれたよ～



ヨモギに溶いた小麦粉をつけてあげたヨモギのてんぷらと、菜の花とノビルをそれぞれ、白味噌、酢、砂糖であえた酢味噌あえ、ゆがいたヨモギを細かく刻み、あたたかいご飯に混ぜ、塩で調味したヨモギご飯のおにぎり、そして、甘いあんの入ったヨモギもちなど。「絶品!」「自分で採った野草はとてもおいしい!」「バイキング形式で食べるのは、とても楽しい!」その言葉どおり、テーブルの上の料理は、あっという間になくなりました。スタッフにとって、とてもうれしいことです。食事の後、子どもたちは、大塩さんのご指導のもと、保護者の方と一緒に、プロ



プロペラヒコーキの説明をする大塩さん

ペラヒコーキを作り、みんなで飛ばしました。

みんなの笑顔あふれる春の日。世代を超えて多くの人々が交流をし、吉野川に生えている野草を摘み、それを食べるという吉野川の新しい魅力を再発見した一日となりました。

男の子も調理がんばってます



保護者の方とは、別々の班に分かれて。初めて会ったお母さんとも、協力しあって調理しています

野草を仕分けした後は、3班に分かれて調理です。まずは、みんなで野草を洗うことからスタート。いつものまにか、熱気でムンムン。大人の方だけでなく、子どもたちも、おにぎりを握ったり、ヨモギ餅を丸めたり、熱心に取り組んでいました。そうしてできあがった料理は、

ヨモギもち



おいしそうにお餅が蒸しあげられました

料理が完成。テーブルに盛り切らず、サラダ、酢味噌あえ、お吸い物などは別のテーブルに



ヨモギの天ぷら

ヨモギごはんのおにぎり



小さくかわいいおにぎり。一生懸命作りました



みんなでバイキング



みんなで記念撮影。おつかれさまでした

吉野川の
渡し編VI

このコーナーでは、吉野川の
今と昔の写真を見ることによって、
ふるき時代をみつめ、
未来の吉野川を創造します。

吉野川
いま
むかし

白地渡し

江戸時代に開業された渡しで、江戸末期には白地村（現在の三好市池田町）所有となっていました。明治28年（1895）土佐街道開通を機会に県の管理となりました。渡し船には、明治・大正にかけて荷車・馬車は、乗れませんでした。大正3年（1914）4月、徳島で最初に*岡田式渡船が導入され、馬車や自動車も積むことができました。吉野川渡し研究会の山地武彦さんの話によると、下の写真の向かって右から3番目の女性が洋傘を持っていることや、警察官の服装などから明治20年代始め頃の写真だと推測されます。

*岡田式渡船

ただし
岐阜県に住む岡田^{ただし}氏が明治30年頃に考案した渡し船。兩岸に高い支柱を立て、ワイヤーと滑車を使い、流れに乗って自動的に対岸へと渡っていくもの。積載量は13t。一度に100人もの乗客と5台の荷車、荷馬車を1台乗せることが可能であったといわれています。

吉野川の渡し展徳島県立博物館と吉野川渡し研究会の共同開催で平成18年2月18日〜3月19日に展示されたものの中から紹介します。渡しは橋や鉄道がなかった時代、重要な交通の手段でした。文化や習慣も運ぶ役割を果たしていました。
(昔の写真は三好市池田町 川崎裕子さん提供)



昔



今

右岸。
写真左「池田大橋」の
付近に渡し場がありました。



今

かつて利用されていた
渡し場への道が残されています。
(池田大橋右岸の上流約150mから対岸を望む)

ふる〜ぶ 編集部が おじゃまします!

松島 小学校 の巻

板野郡上板町鍛冶屋原にある松島小学校。南は、吉野川。北には、讃岐山脈。その麓の扇状地では、江戸時代から和三盆糖が作られてきました。和三盆糖は、高級和菓子に使われるさとうきびから出来た砂糖で、現在作られているのは、徳島県、香川県のみです。

松島小学校では、町の伝統産業を知ろうと、毎年5年生が町の伝統産業について学んでいます。平成19年度は、28名がさとうきびを育てて、糖蜜を絞り、その蜜を使ってお菓子づくりに取り組みました。

学校園での作業は、4月から始まりました。取材日の1月15日は、糖蜜を絞る作業をするため、収穫したさとうきびを8cmぐらいの長さに切り、はさみを使って、こそげるようにして皮をむいていく作業を行いました。

収穫量は、夏の猛暑ですいぶんと少なくなってしまったとはいえ、はさみで皮をむいていくのは、根気のいる大変な作業です。挑戦したものの、なかなかうまくむけず、悪戦苦闘。「先生、食べてもいい?」途中で子どもたちが、さとうきびをかじっていたので、私もいただいて、かじってみました。最初かじったときは、なんの甘みもしませんでした。その後、じわじわと、やさしく、ほのかな甘さが押し寄せてきました。そんなふうにして、2時



暑い時期の草抜き



熱心に皮をむく



収穫したさとうきび

間の間、子どもたちは熱心に取り組んでいます。

普段、町を歩けばさとうきびが生えている。そんな環境にあっても、1年を通して、さとうきびを自分で育てるのは、初めてという子どもたちがほとんどです。何が大変だったと聞くと、暑い時期の水やりや、草抜き、収穫したものを運ぶことだと教えてくれました。

学校園での、さとうきびの栽培や、学校での授業のほか、和三盆糖を生産している岡田製糖所に見学にいき、その歴史について学んだり、実際にさとうきびを搾って糖蜜を作り、その糖蜜におもしろいものをつけて、練り、「和三盆糖」にしていくという「研ぎ」の作業の見学を行いました。

担任の近藤先生には「土に触れ、農作物を作ることがどれほど大変なことか、肌で感じてもらいたい。自分たちの生まれた町にこんなに素晴らしい文化があるんだという思いを持ってもらえたら」という思いがあります。

きっと、子どもたちが大人になった時、「私の生まれた町には、和三盆糖づくりという素晴らしい伝統産業があります」と、胸をはって言ってくれることでしょう。



完成した蜜



作った蜜をかけた白玉



全員集合

吉野川ミニ辞典

よ 吉野川水系水利用連絡協議会

よしの がわすいけいみすり ようれんらくきょうぎかい

吉野川の渇水時に調整、協議を行う会です。組織のメンバーは、利水者の代表である四国四県のほか、農林水産省、経済産業省、電気事業者、国土交通省および水資源機構で構成されています。

渇水が生じる恐れのある場合、または節水運用の強化などが必要な場合、国土交通省から、ダムの状況と今後の見通しなどを報告し、利水者が節水率などを協議します。





「ふる～ぶめいと」は、
吉野川が大好きな
人たちの集まりです。

「ふる～ぶめいと」の活動は、吉野川や吉野川流域に関する身近な情報を「ふる～ぶ」に提供することにより、
吉野川に親しみや、関心を持っていただいて、吉野川ファンの輪を広げていただくことを目的にしています。

めいと レポート

一吉野川 川の便りー 渡し舟 写真のミステリー

徳島市 山地 武彦さん

左右の写真の違いが分かりますか。

左は、平成2年当時の建設省徳島工事事務
所発行「写真集 吉野川百年史 資料編」に掲
載されたものです。「明治初期の渡し場風景
別宮川左岸の川内あたりと思われる」と説明
されています。別宮川は、現在の吉野川です。



吉野川百年史 資料編の写真



河川文化第35号より転写
大田区郷土博物館蔵

右は、平成18年 社団法人日本河川協会発行「河川文
化第35号」に掲載されたものです。「六郷の渡し写真
撮影年不詳 大田区郷土博物館蔵」の説明が付いていま
す。江戸時代、多摩川は下流が六郷川、中流が玉川と呼
ばれていました。

同じ写真が、なぜ四国と関東で御当地の写真となった
のでしょうか。1枚の写真のミステリーです。

左の写真(吉野川)の存在は、平成13年渡し舟跡地調
査中に認識しており「吉野川百年史」に転用した原典を
調査中です。明治32年建設省国土地理院発行「徳島県阿
波国徳嶋近傍地図」2万分の1を手掛かりに現地調査をし
ましたが、確定できる資料の発見には至りませんでした。

ただ全くの私見になりますが、左の写真を宮島渡しと
想定しました。

理由その1。船頭が2人おります。明治14年徳島県統
計書によると、水巾13町20間(約2,700m)吉野川最長
の渡し場であり、その理由3とあいまって、船頭2名を必要

としても不思議ではないこと。

その2。背後の森は、十郎兵衛屋敷西方300mの荒神
社と推定できること。

その3。宮島には、古くから御座船の火夫が多く住み、
才覚のある者は回漕業を興し、遠くは琉球の黒砂糖の
交易を手掛けた記録もあります。明治以降も、四国の玄関
口であった撫養と徳島の船便の中間地にあり、吉野川～
今切川～旧吉野川河口付近の往来が頻繁にあったこと。

次に、写真から読み取れる確実な情報を、紹介します。

明治14年徳島県統計書によると、乗船賃1人4厘、船上
の人力車5厘、陸上の荷馬8厘、荷物のみ4厘です。写真
にはありませんが、駕籠4厘とあり、当時駕籠も多用され
ていたことがうかがえます。船は、この地方で早舟と呼
ばれた木造船で櫓、竿で操船していました。明治20年頃
になって、発動機船が登場してきます。

さて皆さん、前出写真の吉野川、六郷川説確認の資料
をご存知であれば、是非ご教示願います。

ハーブ農園 からの風

このコーナーでは、「ふる～ぶめいと」の黒川慶子さんにハーブの楽しみ方を中心に、食と健康、水の大切さなどについて語っていただきます。楽しいレシピなども登場しますよ。

春から初夏の野山で
身近なハーブを
みつけましょう
その2

◆ダンデライオン(西洋タンポポ)

葉は優れた利尿作用を持つだけでなく、排尿によって失われがちなカリウムを豊富に含んでいます。また、優れた強肝、健胃薬でもあります。根は、便秘に効果があり、関節炎、湿疹、にきびなどの毒素などによる慢性症状に用いられたり、肝臓刺激薬として愛用されたりしています。

◆レッドクローバー

(ムラサキツメクサ)

吉野川の土手でも見かけるレッドクローバーは、昔は牛に食べさせる飼料作物だったそうです。花を潰し、虫さされやとげに外用したり、湿布にして関節炎や痛風の痛みに外用します。

◆ハニーサックル(スイカズラ)

東洋産のスイカズラは花を金銀花と言い、咳や喘息に効く去痰薬として、また利尿薬として伝統的に用いられてきました。



◆チックワイード(はごべ)

春の七草にも登場するのはこべは、どこにでもある雑草です。昔は野菜として利用されたり、傷の治療やおできの吸出し薬として用いられていました。

◆オリエンタルセリ(セリ)

ビタミンB1・Cを含み、発汗や血液の循環を促し、食欲を増進させるはたらきがあります。最近では、日本料理だけでなく西洋料理などにも使われているそうです。

参考文献
英国ハーブソサエティ編メディカルハーブ

野山の散歩で見つけたものは、すぐ収穫、利用するのはなく、是非、経験者にご確認の上、利用されることをお勧めします。

【黒川慶子さん経歴】

ハーブコーディネーター
板野町でハーブ農園を営む。
食と健康について、講演も務める。
徳島県草協会員
上板町草協会員



ふる～ぶ3姉弟妹の Information

吉野川流域講座・吉野川現地(フィールド)講座を開催しています

徳島河川国道事務所では、平成14年度より、川の調査や河川管理施設など吉野川の現地情報を流域住民の皆さんに知っていただくことを目的とした出前講座「吉野川流域講座」と、吉野川に関する情報を流域住民の皆さんと共有することを目的とした参加募集型講座「吉野川現地(フィールド)講座」を実施しています。平成20年度も吉野川流域講座・吉野川現地(フィールド)講座を実施しますので、徳島河川国道事務所のホームページを参照ください。

■吉野川流域講座(平成19年度の内容)

平成19年 5月2日	「第十堰の歴史と利水・治水」	北井上中2年生
平成19年 5月18日	「吉野川の工事」	多度津中高生
平成19年 6月10日	「吉野川の砂防」	流域住民
平成19年 7月8日	「水防工法技術講習会①」	阿波市消防団
平成19年 9月1日	「水防工法技術講習会②」	阿波市消防団・土成中少年少女消防隊
平成19年 7月22日	「水防工法技術講習会①」	吉野川市消防団
平成19年 8月5日	「水防工法技術講習会②」	吉野川市消防団
平成19年 7月22日	「吉野川の野鳥観察会」	城東小の児童と保護者
平成19年 8月21日	「吉野川の水生生物調査」	脇町小4年生
平成19年10月10日	「吉野川の野鳥観察会」	久勝小1・3年生
平成19年10月17日	「吉野川の水質と環境」	藍住北小4年生
平成19年10月25日	「吉野川の概要」	徳島大学留学生①
平成19年11月1日	「吉野川船上探索」	徳島大学留学生②
平成19年10月28日	「吉野川の自然」	石井町住民
平成19年10月28日	「吉野川の水細工教室」	脇町小4年生①
平成19年12月13日	「吉野川の野鳥」	脇町小4・5年生②

■吉野川現地(フィールド)講座(平成19年度の内容)

第1回 平成19年 9月30日	「野鳥観察」
第2回 平成19年12月 9日	「吉野川の自然観察会」
第3回 平成19年12月22日	「吉野川の洪水・濁水とダムの役割」
第4回 平成20年 1月11日	「角ノ瀬排水機場見学・水防工法体験・飯尾川排水機場見学」
第5回 平成20年 3月 2日	「四国のみずべ八十八カ所・吉野川歴史探訪バスツアー」
第6回 平成20年 3月 8日	「景観に配慮した砂防事業」
第7回 平成20年 3月30日	「コアシサシ デコイ(模型)づくり」



平成20年度 吉野川・那賀川合同水防演習を開催します



地域防災へみんなで力をあわせよう

自らの安全は自ら守る「**自助**」

地域住民が協力して守る「**共助**」

行政機関や公共企業などが守る「**公助**」

あなたにできる「**備えと行動**」を学びましょう



見る!

体験!

学ぶ!

実戦訓練

水防訓練

◆河川巡視 ◆情報伝達 ◆水防工法 ◆上空からの被災調査など

避難訓練

◆水没ドアの開閉 ◆家庭でできる水防工法 ◆水中歩行 ◆避難勧告 ◆食糧供給など

人命救助訓練

◆ヘリコプター・舟艇による救助及び応急手当

ライフライン復旧訓練

◆電力、電話の復旧



ドキドキ体験スタンプラリー

みんなで参加しよう体験コーナー

- ◆地震体験
- ◆ロープワーク講習
- ◆3D土流シミュレーション
- ◆水没ドア体験
- ◆家庭でできる水防工法
- ◆降雨体験
- ◆水防工法体験
- ◆土のう作り体験
- ◆水中歩行体験

展示コーナー

- ◆各種災害対策車
- ◆災害対策用機器など



日時 平成20年 **5月25日[日]**
AM9:00~12:00
雨天決行(出水時は中止)

場所 一級河川吉野川水系 吉野川
徳島市住吉四丁目地先
(吉野川大橋下流 南岸河川敷)

共催/国土交通省四国地方整備局、徳島県、吉野川下流水防連絡会、那賀川水防連絡会

【お問い合わせ先】

- ◆国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所 河川管理課 TEL (088) 654-9266
ホームページ <http://www.toku-mlit.go.jp>
- ◆徳島県 県土整備部 河川課 TEL (088) 621-2571



よりよい吉野川づくり 吉野川河川整備計画については <http://www.yoshinoriver.info>

ふる〜ぶ
びる〜ぶ
る〜ぶ



ふる〜ぶ編集後記

自分達で摘んだヨモギやノビルを使って作った野草バイキング、おいしかったです。プロペラバイキング大会で作ったヒコキ。中には会場内を旋回してきれいに飛んだものもありました。(や)



うらかな春の日。世代を超えてたくさん笑顔が溢れた野草摘みバイキング。いついつまでも、このような催しが吉野川でできますように。(か)



写真提供:阿波市役所

「宮内ダム」の鯉のぼり

毎年、4月20日頃から5月のゴールデンウィーク明けまで、宮内ダムで地元のボランティアグループの主催により、鯉のぼりが飾られています。

問い合わせ先:阿波市社会福祉協議会土成支所
TEL (088) 695-4802

今月の
表紙イラスト



お手玉プレゼント

ふる〜ぶめいしとリーダー上田佳穂さんからいただいたお手玉(6個)を抽選で1名様にプレゼントします。ご希望の方は、ハガキまたはFAXに住所、氏名、電話番号、誌面の感想もお書きのうえご応募ください。締切は5月30日(金)です。それぞれ模様が違いますが、発送の際には、写真とお手玉の模様が異なる場合もあります。

プレゼント応募先
〒771-1156 徳島市応神町応神産業団地13-28
ふる〜ぶ編集部「お手玉」プレゼント係



ふる〜ぶは、吉野川流域の市町村役場、図書館、博物館、公民館等の公共施設および道の駅、株式会社阿波銀行の一部の支店と株式会社ファミリーマートの一部の店舗に置かせていただいています。皆様ご愛読ください。